東北学院大学南津島民俗調査プロジェクト報告書

文責：吾孫子侑希・佐久間奈帆・
白岩大空・寺島遥・長濵ひかり

１．はじめに

本稿では、本年度の東北学院大学南津島民俗調査プロジェクトの成果と、次年度に向けての課題とを記述してゆく。

本稿の構成は以下の通りである。①活動の主旨、②今年度の活動と成果、③次年度に向けての活動である。

１．１．メンバーと私たちの強み

私たちは宮城県仙台市にある、東北学院大学に所属する学生団体である。私たちには、次の２つの強みがある。

１つ目は、専門性を活かした貢献ができることである。プロジェクトのメンバーは文学部歴史学科の学生たちであり、専門分野として地域文化を研究対象とする、民俗学を学んでいる。講義や実習では、民俗学の基本的な知識を学ぶだけでなく、フィールドワークに関する知識や姿勢・心構えも学んだ。共通の専門性を持つからこそ、地域の人びとが大切にしてこられた地域文化についての深い洞察が可能になり、地域の復興を展望できると考える。

２つ目は、長期の貢献が可能になることである。メンバーは東北各地の出身者が多数を占める。私たちは相双地区の地域文化を掘り起こしつつ、各自の地域に残る芸能や地域文化との比較した調査・研究をする計画である。また、私たちの多くが東北各地での就職を希望している。地域文化との交流が学生時代に完結してしまうのではなく、将来的にも交流を続けていくなど、長期にわたる調査活動が可能であると考えている。

このような強みを活かして、福島県でも、とりわけ東日本大震災で被災した地域の「集落復興支援事業」に取り組もうと考えた。

１．２．南津島地区との出会いと活動の狙い

本事業を通じて、双葉郡浪江町南津島地区のみなさんとの交流活動を実施することとなった。南津島は現在もなお、帰還困難区域に指定されている。そのため、かつて地区から避難した人びとは、集落を離れバラバラに住まうことを余儀なくされている。かつてのような、土地に根ざした近隣関係にもとづく集落活動が困難である状況が理解できた。

また私たちは南津島にある優れた芸能について知った。それは県指定民俗文化財である田植踊り／神楽七芸などである。現在も南津島郷土芸術保存会が、優れた芸能を継承している。しかし避難先がバラバラになってしまったことにより、震災後も人びとの心の拠り所となっている民俗芸能でさえも、継続が困難な状況が現出している。

こうした状況を見聞きするにつけ、私たちの強みを活かした集落支援ができるのではないかと思うようになった。すなわち、地域文化をサポートする活動を通して、地域をエンパワーメントできるのではないかということだ。そのためにまず地域を調査し、現在まで育まれてきた歴史・伝統を掘り起こし、ささやかながら文化を残す役割を担いたいと考えている。

地域文化は様々な要因により空間的にバラバラになり、「風前の灯火」となってしまっている。しかし、受け継がれてきた伝統の尊さ、重要性は変わらない。地域の住民の思いや考えをくみ取り、それらを廃れさせないために、調査・研究を行うことは、私たち民俗学を学ぶ歴史学科生の使命であると考えている。

また、私たちが担い手に加わることで、地域文化の認知度を高める効果も期待している。眠っている地域文化を復興させ、周知させることでまた次世代の担い手の発掘をすることができるのではないか。連綿と受け渡されてきたものを、また私たちが繋ぎ、その先に届ける。その仕事に誇りと責任をもって取り組んでみたい。

２．今年度の活動内容

以上のような状況をふまえて、今年度は民俗芸能の継承を軸に活動してゆくこととした。というのも、現状でもすでに、保存会メンバーのみで田植踊りを披露することが困難になりつつあることが確認できたからである。私たちがサポートできる体制を構築してゆくことで、民俗芸能の継承のみならず、集落の持続へも貢献できると判断したからである。

２．１．主な活動内容一覧

今年の主な活動内容は、次ページに整理した、表１のようにまとめることができる。

大きく３つの活動内容からなっており、①8 月下旬の夏期合宿までは、保存会のみなさまや関係先をまわり、私たちの活動への理解や協力を求めた。その後、具体的な活動に移り、②夏から秋にかけて、南津島郷土芸術保存会のみなさまと、交流と練習を重ねてきた。私たちが田植踊りを習うだけでなく、保存会のみなさまに神楽を披露していただいた。

そのうえで、③10 月 9 日の「ふるさとの祭り 2022 in なみえ道の駅」、年があけて 23 年 2 月 26 日の「若者たちが見つめる民俗芸能」、3 月 11 日の「福島を正しく伝える写真パネル巡回展～大地と人の力～」に参加し、田植踊りを披露した／する予定である。

それぞれの活動について、次節以降に簡単にまとめる。

表１：今年度の活動概要

年月日	会場	参加者	主な内容
2022 年 6 月 1 日（水）	浪江町役場	今野・佐久間	浪江町教育委員会に対し、活動への協力依頼。
2022 年 7 月 9 日（土）	二本松市市民交流センター	今野・佐久間・寺島	南津島郷土郷土芸術保存会・全体会に参加し、今後の交流方法や活動方法を検討。
2022 年 8 月 26 日(金) ～29 日(月)	福島県青少年会館	本プロジェクトメンバー一同	南津島郷土郷土芸術保存会のみなさまとの交流及び、田植踊りの練習・実践。
2022 年 9 月 25 日(日)	二本松市・市民交流センター	佐藤・宮本・白岩・佐澤・吉田・今野	「ふるさとの祭り 2022in なみえ道の駅」に向けた南津島郷土芸術保存会の方々との合同練習。出演する学生以外にも多くの学生が練習に参加した。
2022 年 10 月 2 日(日)	二本松市・岳下住民センター	但野・吾孫子・今野・小川・相澤・兼子・小原・寺島・長濱・白岩	「ふるさとの祭り 2022in なみえ道の駅」に向けた南津島郷土芸術保存会の方々との合同練習。本番に出演する学生以外にも多くの学生が練習に参加。また本番に向けて衣装の用意や試着、小道具の制作なども行われた。
2022 年 10 月 9 日(土)	浪江町・道の駅なみえ	出演：兼子・佐澤・白岩 サポート：國崎・吉田・澤里・小原・吾孫子・長濱・相沢・寺島	「ふるさとの祭り 2022in なみえ道の駅」に兼子・佐澤・白岩の 3 人が保存会の方々とともに出演し田植踊りを披露した。また出演した 3 人以外の学生も記録用の動画の撮影、着付けの手伝い、様々なサポートを行った。
2023 年 2 月 11 日(土)	ホテル福島グリーンパレス	相澤・小川・佐久間・但野	「大学生と集落の協議による地域活性化事業」の活動報告会に参加。南津島民俗調査の活動報告をパワーポイント・活動の紹介動画・プローフィールパンフレットを用いて、該当地域の人々や参加者に向けて発表。

2023 年 2 月 12 日(日)	二本松市・岳下住民センター	吾孫子・兼子・白岩・但野・相沢・今野・佐久間・澤里・阿部・國崎・佐藤・宮本・吉田	南津島郷土芸術保存会の方々と学生が合同練習を行った。これまで覚えたことを更に細部まで磨いた。また衣装の着付けの仕方も学んだ。
2023 年 2 月 25 日(土) ～26 日（日）	福島県男女共生センター	吾孫子・小川・兼子・白岩・但野・寺島・長濵・山口・相澤・今野・佐久間・佐澤・澤里・阿部・小原・國崎・佐藤・澤田・宮本・吉田	「若者たちが見つめる民俗芸能～浪江町 請戸の田植踊と南津島 の田植踊に関わる若者たちから見えてくる継承の姿～」に出演。
2023 年 3 月 11 日(土)	エル・パーク仙台	吾孫子・小川・兼子・白岩・但野・寺島・相澤・今野・佐久間・佐澤・澤里・小原・國崎・佐藤・宮本	「福島を正しく伝える写真パネル巡回展～大地と人の力～」に際して、田植踊りを披露する予定。

２．２．具体的な活動内容

＜夏期合宿＞

昨年 8 月 26 日～29 日に福島県青少年会館で行った夏期合宿では、本プロジェクトのメンバー一同が参加し、南津島郷土芸術保存会の方々と交流を深め、直接田植え踊りを教えていただいた。

２日目から本格的な指導が始まり、保存会の方々から田植え踊りについての説明や、それにかける思いをお聞きした。その後、鍬頭、役割ごとに分かれ、保存会の方から踊りの動きの意味に関するたくさんの話をお聞きしながらの練習に励んだ。３日目には練習の他に NPO 民俗芸能を継承するふくしまの会代表の懸田弘訓先生からのお話を聞き、そして保存会の方には神楽七芸の「神楽」「ひょっとこ」も見せていただくなど、田植え踊り以外の伝統芸能にも触れることができた。

短い練習期間ではあったが、4 月から合宿前までほぼ映像のみの練習だったため、実際に道具を使用しての練習は貴重な経験となった。

写真１：交流と練習の様子

写真２：交流と練習の様子

＜ふるさとの祭りまでの練習＞

ふるさとの祭りまでは授業の合間に練習が行われたことに加え、計２回南津島郷土芸術保存会の方々との合同練習が行われた。合同練習は２週に渡り二本松市の市民交流センター及び岳下住民センターで行われた。合同練習にはふるさとの祭りに参加する学生以外にも多くの学生が参加し、田植踊りを学んだ。また、本番で身につける衣装の着用練習や小道具の制作、実際に衣装を身に付けての踊りの練習など、より実践的な形で合同練習が行われた。

大学に戻ってからも、自主的な練習に励んだ。合同練習で指摘された点を中心に練習が行われ、合同練習に参加できなかった学生にも情報を共有しつつ、より良い田植踊りにするために議論も交えながら試行錯誤して練習が進められた。

写真３：大学での自主練習

写真４：二本松市市民交流センターでの練習

<ふるさとの祭り>

2022 年 10 月 9 日にふるさとの祭りが開催され、南津島郷土芸術保存会が披露する田植踊りに、私たちのメンバーが 3 名出演した。出演以外では動画撮影や舞台道具の運搬、着付けの手伝いなどの作業も行った。

一部の学生ではあるが初めて公の場で踊りを披露し、本番を踏まえて、舞台に合わせた振り付けや立ち位置への対応、準備時間内の自分たちでの衣装の着付けなど、新たな課題を発見することができた。

写真５：着付

写真６：本番の様子

また、南津島の田植踊り以外の民俗芸能に触れる機会となった。福島県内の伝統芸能の現状を改めて理解・共有し、地域に根付く民俗芸能を伝承する活動の課題を学生が当事者として捉える経験となった。

＜年明けの活動＞

年が明け、2023 年になってからは 2 月 26 日に福島県男女共生センターで開催された「若者たちが見つめる民俗芸能」への出演、及び 3 月 11 日にエル・パーク仙台で開催される「福島を正しく伝える写真パネル巡回展」に際し披露する田植踊に向けての練習が本格化した。2 月 12 日には二本松市の岳下住民センターにて保存会の方々と学生による合同練習が行われ、配役毎に所作や位置の見直し、確認を繰り返しながら向上を図り、全体としての踊りを磨いた。

特に 26 日の発表は学生のみで踊りを披露する初めての場となるため、①2 日の練習は学生のみならず保存会の方々も含めより一層熱が入ったものとなった。、和やかな交流もある一方で練習では多くの場面で真剣な表情がみられた。また 25・26 日の公演も、写真 8 から 17 に示したように、盛会に終わった。

写真 7 ：岳下住民センターでの練習

写真 8 ：請戸芸能保存会との交流

写真 9 ：鍬頭

写真 10：太鼓打ち

写真 11：種下し

写真 12：ささら

写真 13：早乙女①

写真 14：早乙女②

写真 15：笛

写真 16：太夫

写真 17：両保存会のメンバーとの集合写真

３．次年度へ向けて

次年度の実証活動へ向けて、大きく２つの活動を展開してゆきたい。

１つは、民俗芸能の継承活動の継続的な実施である。保存会のみなさまにより貢献できるよう、現在、各自が選んで研鑽を積んでいる配役以外に、新たに異なる配役にも挑戦・修得し、さまざまな配役に対応できるようになることを目指したい。

続いて、南津島集落の記録作成を目指す。今後、帰還が可能になるとしても、それを選択する方ばかりではない。震災前にはどのような人びとが集い、いかなる文化が残されてきた地域であるのか、民俗調査を実施してゆきたい。すなわち、芸能の継承に加えて、次年度は聞き取り調査を交えていきたいと考えている。

参考：取材記録

日付	タイトル	メディア	URL
2022 年 ８月 31 日	「つないでいかないと」原発事故で危機の伝統芸能を学生が継承　代表の女子学生の思い	TUF：テレビユー福島	https://newsdig.tbs.co.jp/articles/tuf/139256

2022 年 ９月３日	継承への挑戦、南津島の田植え踊りの取り組み	一般社団法人まちづくりなみえ	継承への挑戦、南津島の田植踊りの取り組み ｜ まちづくりなみえ（mdnamie.jp）
2022 年 10 月 10 日	福島・浪江で民俗芸能祭り 震災や過疎を乗り越え　地域の絆深める	毎日新聞	https://news.yahoo.co.jp/articles/dd05acefca25b90ee6232c4197bf7ebb48dd883e
2022 年 10 月 18 日	“南津島の田植え踊り”大学生が継承	NHK ふくしま eye	https://www3.nhk.or.jp/lnews/fukushima/20221018/6050020498.html
2022 年 11 月 5 日	つながｒｏｏｍ Five	ラジオ福島	
2023 年 2 月 23 日	浪江「田植踊」学生継ぐ　南津島地区 26 日披露へ 「期待応えたい」＝福島	読売新聞	
2023 年 2 月 27 日	県内の民俗芸能継承へ　大学生ら意見交換　福島県二本松市でシンポジウム	福島民報	https://www.minpo.jp/news/moredetail/20230227105146
2023 年 2 月 27 日	女性お断りだった伝統芸能「田植踊」を残したい　原発事故で避難した女子学生が注ぐ熱意	東京新聞	https://www.tokyo-np.co.jp/article/233414
2023 年 2 月 27 日	柔軟な発想で担い手育成へ 民俗芸能継承シンポ、若手らが討論	福島民友	https://www.minyu-net.com/news/news/FM20230227-760603.php
2023 年 2 月 27 日	ともし続ける伝統の灯 学生が受け継ぐ「田植踊」 福島・浪江	毎日新聞	https://mainichi.jp/articles/20230226/k00/00m/040/269000c
2023 年 2 月 27 日		TUF：テレビユー福島	https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/348700?display=1&mwplay=1